

ビントロングのハッピーエクササイズグッズ

2013年 実施
(写真は8月撮影)

鹿児島市平川動物公園 橋口 泰志・松元 悠一郎

- 【目的】**
- ① 飼育環境をより自然な生息環境に近付ける。
 - ② 展示場内の空中空きスペースを余すことなく利用し、動物たちの息遣いが伝わってくるような立体的構造となるように取り組む。
 - ③ 動物にストレスなく、来園者も楽しめる仕掛けに取り組む。

ビントロングの習性
 ジャコウネコ科の樹上性・夜行性動物であり、身体と同じ位の長い尾を木に巻きつけて上手に使う。

工作物(フィーダー付きロープ)

材料



天井の滑車



餌を詰めている様子



ロープを引く来園者



集まって来たビントロング



ロープ伝いで力などが分かる



【実施内容】
 高所・中部・低所と動かせる可動式工作物の作製・設置を行った。

【材料】
 ロープ、木の枝(足掛け用)、竹筒(フィーダー)、竹筒(滑車用)、金具(ジョイントホルダー)

【方法】
 フィーダー(餌筒)を付けたロープを、柵越しにいる来園者に実際に動かしてもらう。

【結果・メリット】
【動物サイド】
 樹上性動物の本能をストレスなく刺激することで、動物本来の能力と行動を引き出し、展示場内における生活の質を高めることができた。
 来園者が動かすという不規則さが、動物の飽きにくさへ繋がった。
(具体例)
 高位置に移動した竹筒に興味を示して登っていき、野生下で見られるような行動を見せるようになった。
 尾など身体の筋肉を最大限に使った採食行動が観察できる。
(飼料エンリッチメント)

【来園者サイド】
 工作物を来園者自身が動かして体験することで、楽しみながら動物の行動や習性について理解を深めることができた。
(参加型エンリッチメント)

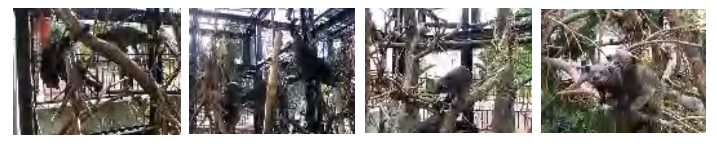
工作物(編み込んだカズラ)



【実施内容・材料】
 展示場内の天井張り出し部分を利用し、立体的な構造とした。カズラを編み込み、天井から吊り下げ、来園者の手の届く位置へ二箇所垂らした。

【結果・メリット】
 垂らしたカズラを来園者がいつでも気軽に動かすことができる。動くカズラに興味を示して近づいて来たビントロングの動き・身体の各部位を真下から観察することができた。

空中スペースの利用



【実施内容】
 展示場を立体的に考え、組み木やカズラ・ツルを余すことなく張り巡らせた。そして、その組み木やカズラに大小のフィーダーを取り付けた。

【結果】
 展示場内を動き回ることによって行動範囲が広くなり、運動量が増加し、活動時間が長くなった。また、樹上での採食時間も長くなった。

地表部での活動



【実施内容】
 砂地だった地面に枯葉を敷き詰め、種子類を蒔いた。

【結果】
 昆虫等が成育しやすい環境となり、ミミズ等を探す行動を見せた。

夏場の遮光



【実施内容】
 ヤシの葉を日よけとして設置した。

【結果】
 葉の枚数を変えることで遮光調整を容易に行えた。暑さによる不調を起こしにくくなった。

【今後の課題】 夜行性動物としての夜間の飼育環境の工夫や、他の小動物などとの混合飼育も視野に入れ、より良い飼育環境の構築に努めたい。